

## 主張

### 自分創りを目指して

岡 利哉

「自分探し」という言葉を耳にするようになって久しい。一見耳当たりのよい言葉であるが、私は、この言葉に大いに危機感を感じるのである。定職を持たない「フリーター」、学校教育を受けず職にも就かない「ニート」、そして新卒者の早期離職を表すいわゆる「七五三現象」など現在の若者に発生・増加しているこれらのことを、「自分探し」という一言で容認しているように思うからである。少子高齢化社会が到来し、産業・経済の構造や就職の環境が変化していく中で、若年層の精神的・社会的な自立の遅れに端を発しているこの問題は憂慮すべきことである。人間関係が上手く構築できず、意思決定力が低い。自己肯定感もせず、進路意識や目的意識が希薄なまま学生時代を過ごしてしまう子どもたちが増加しているのは、紛れもない事実である。校長は、学校教育に携る者としてこの問題に正面から向き合う必要がある。

前任校において、文部科学省指定研究「人間としての在り方生き方を考える教育」を受け、「和やかな心を育み、人と社会の中で生きる生徒の育成」を研究主題に掲げ二年間の研究に取り組んだ。一学年は、ふるさとを知るための調べ学習「和歌山探訪」と自分の将来について考える「マイゴール夢に向かって」、二学年では、体験活動「職場体験」を柱

(2)

に、その事前学習として「仕事調べ」、事後学習として「職場体験を終えて」、三学年では、一・二学年の学習を元に自らの進路決定に向けて「高校調べ」「高校訪問」等を総合的な学習の時間や道徳の時間を活用して実施した。いずれもまとめの段階で生徒がプレゼンテーションを行い、さらに意見を交し合う形式をとった。「人間としての在り方生き方を考える」というのは大変大きなテーマであるが、「自分の在り方生き方を考える」と置き換えれば自ずと見えてくることがあるのではないかと仮定のもとに進めた研究である。現任校では、国の「学校支援地域本部事業」を活用して本県が推進している「共育コミュニティ推進事業」に取り組んでいる。これは、「子どものために」をキーワードに学校・家庭・地域が一体となって子どもを取り巻く問題や教育の課題・願いを共有し、共に解決に取り組もうというものである。本校の同窓会は、組織的に活発な活動を展開しており、この同窓会を母体として地域を巻き込んで体験活動・ボランティア活動など様々な活動を行っている。この取組の最も大きなねらいは、地域を知り、地域を愛し、母校を誇りに思ふ心、いわゆる帰属意識の育成による規範意識や学習意欲の向上である。

中学校の進路指導は、高校進学への出口指導である。現状を踏まえればこれも必要で重要なことである。しかし、それだけでは「自分探し」は解消できない。中学校での三年間で、職業観、勤労観や職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己肯定感をもたせるためにどのような指導が必要なのか、進路指導を包括したキャリア教育の在り方が今問われている。本校でも生徒たちが、「自分探し」ではなく「自分創り」に取り組める学校づくりを目標に掲げて、教職員一丸となって取組を進めているところである。

(全日中副会長・和歌山市立西浜中学校長)

(3)